

地域の特徴ある教育を紹介します 2

～テーマは環境・教科書は琵琶湖・そして船上で新しい出会いや友情を～
湖上に浮かぶ学校「びわ湖フローティングスクール」【滋賀県】

滋賀県では、子どもたちの宿泊体験学習の場を母なる湖「琵琶湖」に求め、県内の小学5年生全員を対象に、学校教育の一環として、湖上に浮かぶ学習船「うみのこ」による航海体験学習事業が実施されています。

ここでは、1泊2日の湖上航海を通じて、湖水の調査をはじめとする環境学習や集団宿泊を通じて、いろいろな地域の友だちとの交流や友情を深めることをねらいとした様々な取組が行われています。

一度に240人が宿泊できる学習船「うみのこ」は、昭和58年の就航以来、1,500回以上の航海を数え、航行距離は地球8周分に相当する約32万キロになりました。その中で友情の輪を広げ卒業していった子どもたちは、約28万人に上ります。

びわ湖学習（環境学習）

～湖の生の姿から、水の大切さや自然の大切さを理解するきっかけに～
湖のいろいろな箇所での水質の透明度調査や深層水の観察
地域を流れる川の水と湖との比較
湖の中で生活する様々なプランクトンの観察や水草の採取

海洋活動

～船ならではの活動を体験できる機会に～
カッター活動 手旗やロープワーク
甲板みがき

交歓交流活動

～乗船した子どもたち同士の交流と友情
を更に深いものに～

学習船「うみのこ」には、近隣の地域の学校の子どもたちが、一緒に航海するよう計画されています。

1泊2日の船上での様々な学習や集団宿泊生活の中で、同じ学校の子どもたち同士はもちろん、同時乗船校の子どもたちとの交流を通じて、新たな発見や新たな友情が芽生えることを期待して学校紹介や名刺交換、ゲーム、綱引き大会等様々な交歓交流活動の機会が用意されています。

また、規則を守り、互いに協力していくことの大切さを肌で自覚する機会にもなっています。

京都府や大阪府の子どもたちも参加

～琵琶湖・淀川流域の子どもたちとの交流を～

さらに、平成11年度からは、琵琶湖や自然を思いやる気持ちを共有してくれることを期待して、琵琶湖・淀川流域の京都府や大阪府の小学生にも参加を呼びかけ、交流が深められました。

今後も、より多くの子どもたちが、学習船「うみのこ」で様々な体験学習を行う中で、琵琶湖の強力な理解者、応援者に育ってくれることが期待されています。



期待に胸をふくらます子どもたちを乗せ出発する学習船「うみのこ」

2 日 間 の 日 程	活動	第1日目						第2日目								
	活動	10:00 (乗船) 出港見学 開校式 オリエンテーション	12:00 非難訓練 昼食(船内見学)	13:30 (寄港地での活動) 船内での活動	17:00 夕食・シャワー	19:00 「湖の子」の調べ	20:30 就寝準備	22:00 消灯・就寝 自分を見つける時間	6:00 起床・洗面	7:00 身辺整理・掃除	7:30 朝のつどい	9:00 就寝準備	(寄港地での活動) 船内での活動	12:00 昼食	13:30 学習のまとめ	14:20 「湖の子」掃除 開校式



水質の透明度調べ



プランクトンの観察



カッター活動



湖岸清掃



甲板みがき



交歓交流活動

~参加した子どもたちの声から~

とてもうれしかったのはピワクンショウモという植物プランクトンを見つけたこと。それはびわ湖にしかないプランクトンだからです。

透明度調べでは、中の井川の水が一番汚くて、水無瀬川の水が一番きれいだった。でも、昔は水無瀬川ももっときれいだったかもしれない。

びわ湖の北湖と南湖は同じ湖なのに、何で南湖の方がにごっているのだろうと思った。

最初はみんなばらばらだったけど、声を出してうまく進むようになりました。漕いでいるとき、みんなの声が聞こえて、「すごい！みんなの心が一つになった」と感じました。(カッター活動に取り組んで)

他の学校の友達と会った時、すごくはずかしかった。でも、すぐにしゃべれるようになった。はじめて会った人なのになぜか気楽に話せるようになったり、遊んだりできるようになった。また会いたいなあ。

フローティングスクールに行くと、いっぱい友達がつくれるよ。それにびわ湖のことがいっぱいわかるよ。それにびわ湖の広さが少しだけわかる。びわ湖はすごい広かった。びわ湖学習でびわ湖の70mの深さの水をさわったらすごい冷たかった。

滋賀県では、「環境こだわり県」を目指し、早くから琵琶湖の総合的な保全をはじめとする様々な環境保全に対する取組が行われています。

琵琶湖は滋賀県だけでなく、日本の、そして世界の大切な宝物です。その保全には県内だけでなく周辺地域の人たちの協力が欠かせません。

この「うみのこ」で育った県内をはじめ周辺地域の多くの子どもたちが、琵琶湖のファンとして、そして将来の自然の守り手として、今後、琵琶湖だけでなく地球規模での環境保全に主体的に取り組んでくれることを期待します。